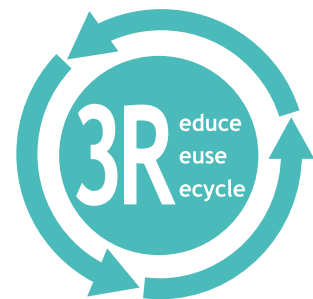


日本の マテリアルバランス

2007

The Material Balance of
Japan, 2007



(財)クリーン・ジャパン・センター



2010年3月

財団法人 クリーン・ジャパン・センター

〒107-0052
東京都港区赤坂一丁目 9-20(第16興和ビル北館6階)
電話 03-6229-1031
FAX 03-6229-1243
URL <http://www.cjc.or.jp>



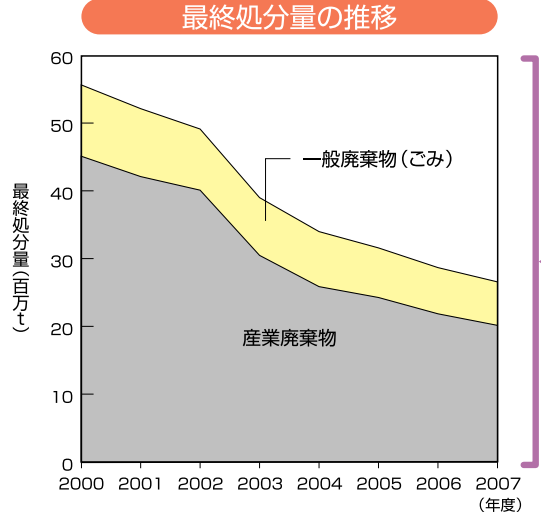
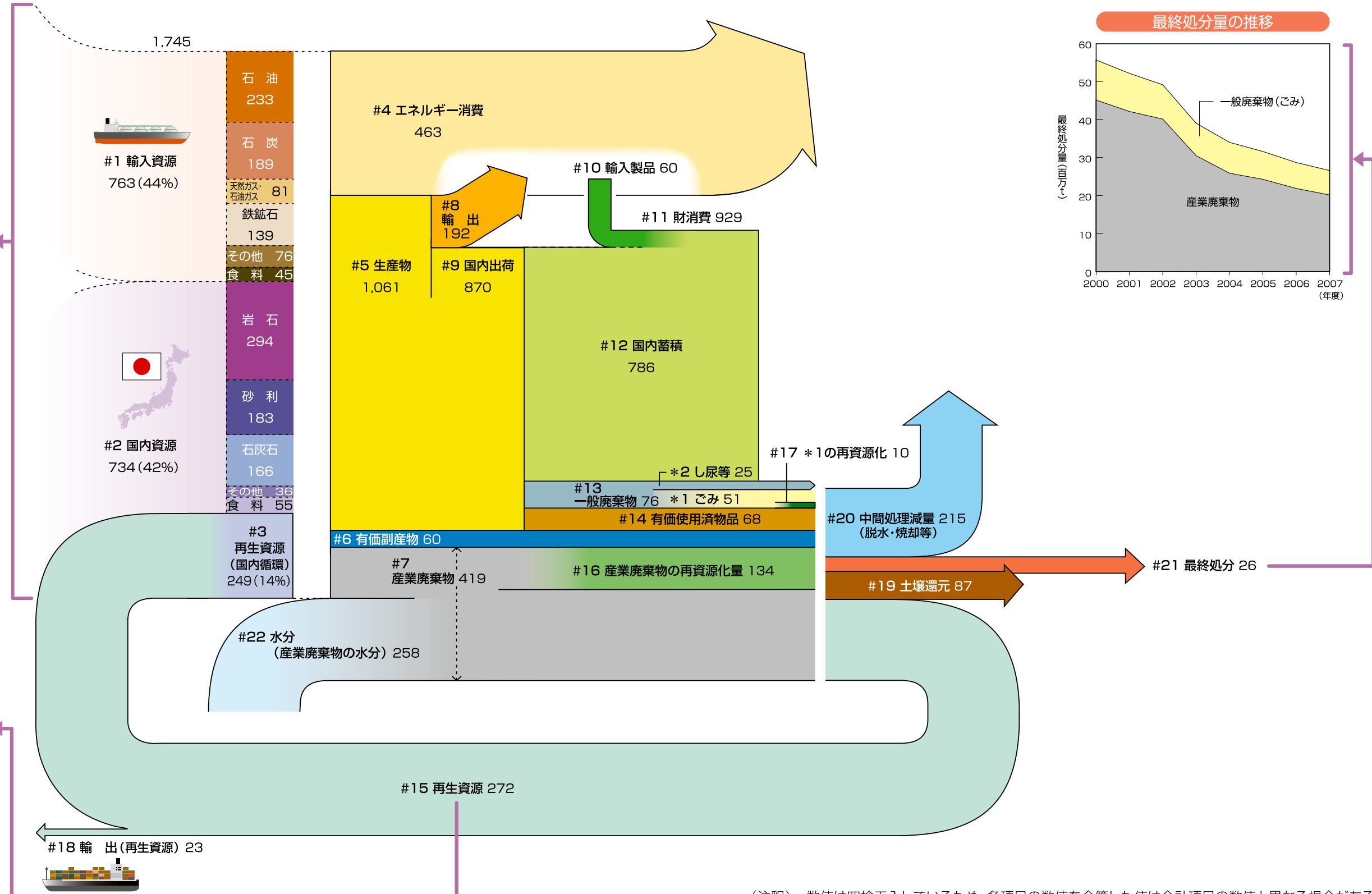
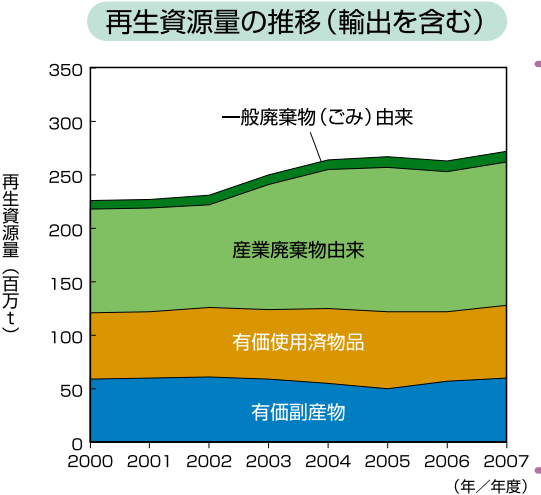
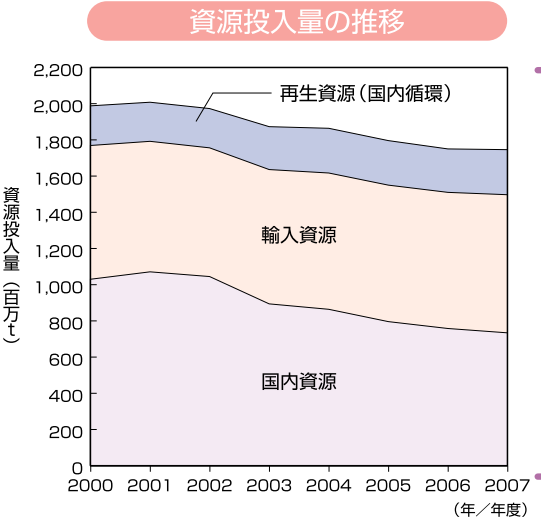
この事業は、競輪の補助金を受けて実施したものです。
<http://ringring-keirin.jp>

日本のマテリアルバランス 2007

単位：百万 t

作成：(財)クリーン・ジャパン・センター

資源投入 財生産 財消費 リサイクル・中間処理 最終処分等



(注釈) 数値は四捨五入しているため、各項目の数値を合算した値は合計項目の数値と異なる場合がある。

日本の マテリアルバランス 2007

日本のマテリアルバランス2007は、資源の有効利用と3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進のための基礎データとして、我が国の「資源投入」「財生産」「財消費」「リサイクル・中間処理」「最終処分」までの一連の物質フローを一般公開されているさまざまな統計データを使用して算出したものです。

これら物質フローを算出するために使用した各統計は、それぞれの目的、定義に従って集計されたものなので、これらを統合して物質フローを算出する際にはデータの欠落やくいちがいが生じますが、全体像を把握することのほうにより重要と考え、前提条件を想定してこれらを補い数量を算出しています。

なお、2010年3月現在、日本の廃棄物の排出・処理等に関する統計（環境省公表）は2007年度データが最新なので、これに合わせて本マテリアルバランスの算出においては、2007年度または2007年の統計データを使用しています。また、数値は四捨五入しているため、各項目の数値を合算した値は合計項目の数値と異なる場合があります。

概要

日本のマテリアルバランス2007を概観すると、わが国では一年間に17.5億トンの資源を投入して10.6億トンの財を生産しています。また、この財生産のために4.6億トンのエネルギーを消費し、0.6億トンの有価副産物と4.2億トンの産業廃棄物を排出しています。

これら有価副産物や産業廃棄物などのうち2.7億トンは再生資源として循環利用され、0.9億トンは堆肥等として土壌に還元されています。また、再生資源のうち0.2億トンは輸出されています。

生産された10.6億トンの財の一部1.9億トンは輸出されていますが、残り8.7億トンは国内に出荷され、これに輸入製品0.6億トンを加えた9.3億トンが財消費されます。この結果、9.3億トンの一部は費消しますが、7.9億トンは道路、橋、建築物、生産設備、耐久消費財などとして国内に蓄積されます。これらは何年か後にはやがて廃棄物や有価な使用済物品等になります。

以上のような資源投入、財生産、消費、リサイクル等の一連のマテリアルフローの結果、どうしても有効利用できない廃棄物0.3億トンが最終処分（埋立等）されます。

注釈

日本のマテリアルバランス2007に含まれていない主要な物質フロー

- 建設発生土：約2.0億m³/年（出典：国土交通省「平成17年度建設副産物実態調査結果」）
- 農産物非食用部：約1,400万t/年（出典：バイオマス・ニッポン総合戦略推進アドバイザーグループ第12回会合配付資料（2009年3月24日））
- 林地残材：約800万t/年（出典：同上）
- 廃棄物に含まれる水分以外の用水量

1 資源投入

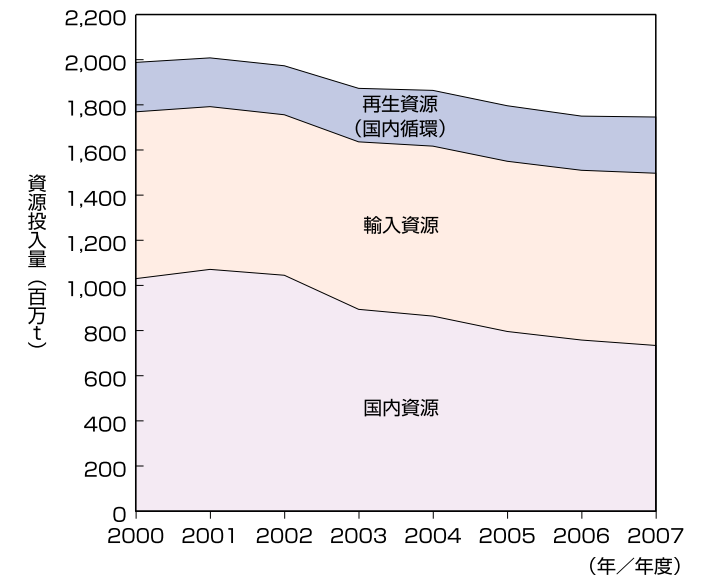
ここ数年間の資源投入量の推移をみると徐々に減少しています。内訳をみると輸入資源はほぼ横ばいですが、国内資源は徐々に減少しています。

なお、わが国の2007年/年度の資源投入量は、輸入資源が7.6億トン（44%）、国内資源が7.3億トン（42%）、再生資源が2.5億トン（14%）、合計17.5億トンです。

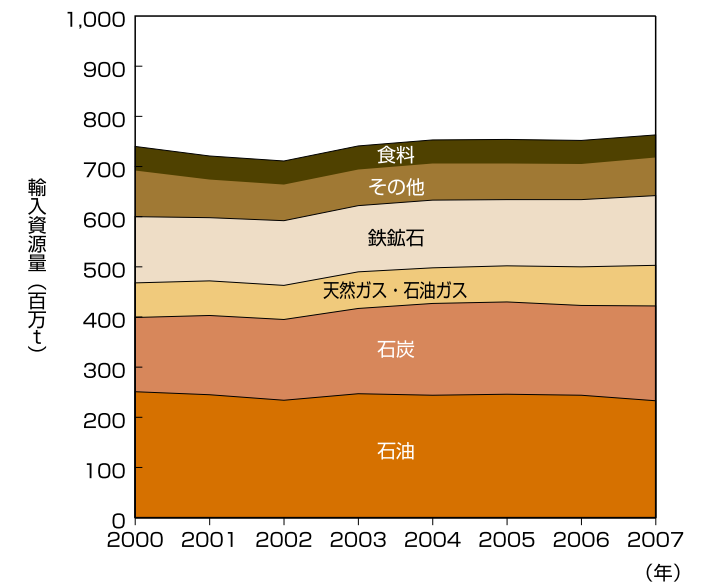
(1) 輸入資源

ここ数年間の輸入資源量はほぼ横ばいです。わが国は、エネルギーや化学工業等の原材料となる石油、石炭、天然ガス・石油ガスのほぼすべてを海外に依存しており、2007年の輸入量は石油2.3億トン、石炭1.9億トン、天然ガス・石油ガス0.8億トンです。また、金属鉱物もほぼすべてを海外に依存しており、輸入量は鉄鉱石1.4億トン、非鉄金属鉱合計0.1億トンです。食料も0.5億トン輸入しています（cf. 国内食料：0.5億トン）。（#1）

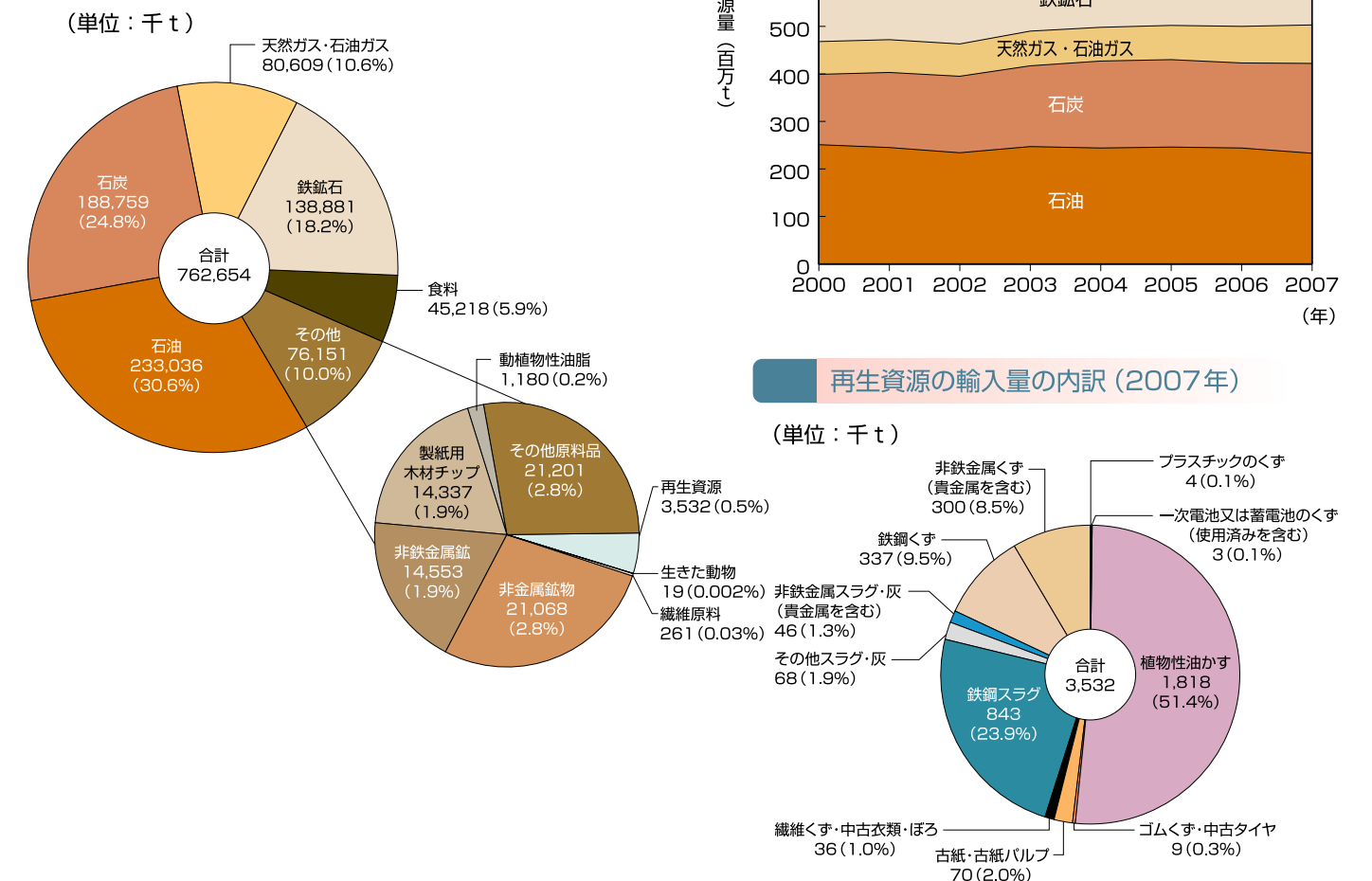
資源投入量の推移



#1 輸入資源量の推移



#1 輸入資源の内訳（2007年）



再生資源の輸入量の内訳（2007年）

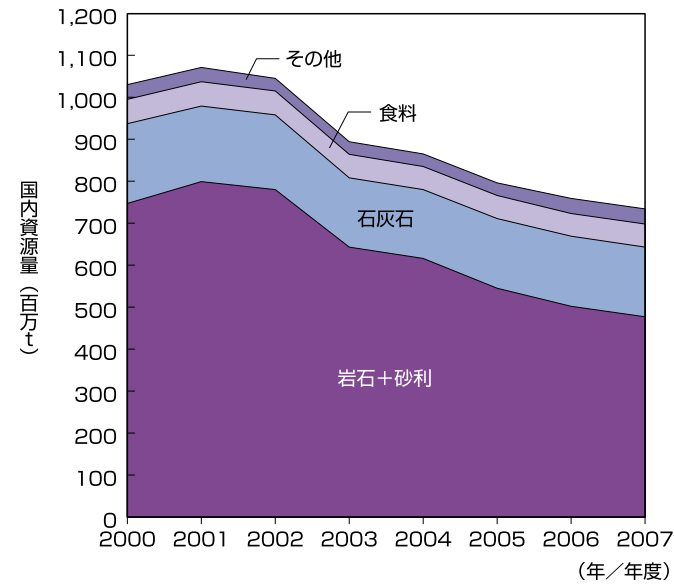
(2) 国内資源

ここ数年、岩石と砂利の使用量が減少していることにより国内資源投入量は減少しています。国内資源の主体は、岩石(2.9億トン*¹)、砂利(1.8億トン*²)、石灰石(1.7億トン*¹)です。岩石や砂利の主要用途は、道路や建物に使用される骨材*³です。また、石灰石は道路や建物に使用されるセメント原料や製鉄用資材に使用されます。我が国では土木建築用の非金属鉱物資源はほぼ国内で賄っています。(＃2)

注釈

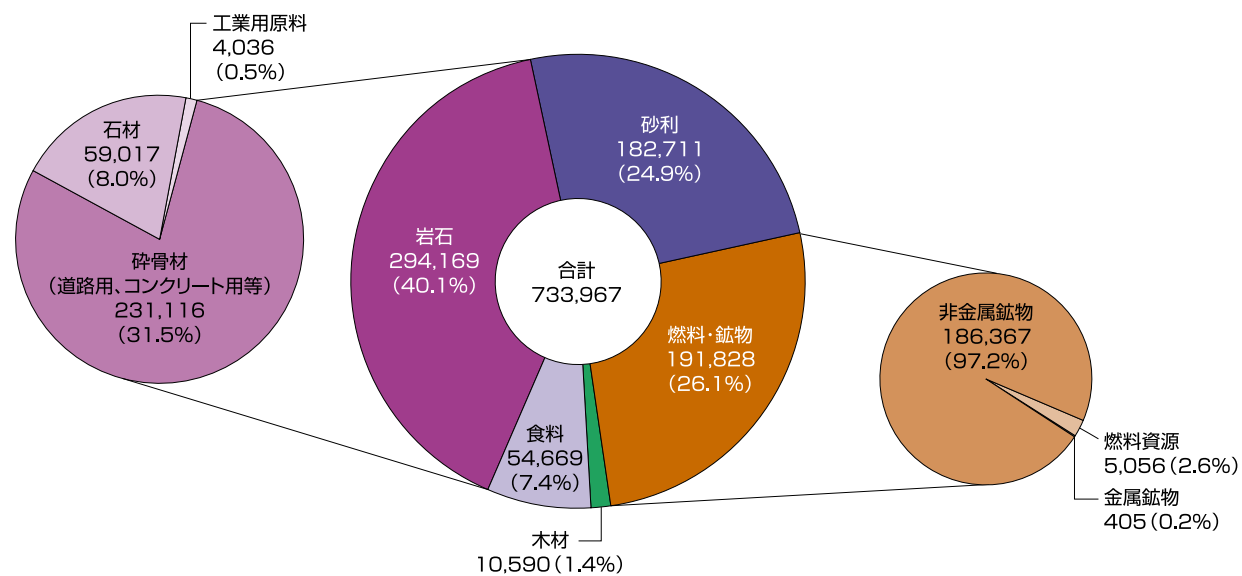
- *1: 2007年
- *2: 2007年度
- *3: コンクリートや道路などに使用される砕石、砂利、砂。

#2 国内資源量の推移



#2 国内資源の内訳 (2007年/年度)

(単位: 千 t)



(3) 再生資源 (国内循環)

国内に原材料として投入される再生資源は、製品の製造、エネルギーの供給の際に副次的に発生する有価副産物0.6億トン、産業廃棄物から再資源化された再生資源1.3億トン、財消費の結果発生した有価使用済物品0.7億トン、一般廃棄物から再資源化された再生資源0.1億トン、合計2.7億トンから輸出0.2億トンを差し引いた2.5億トンです。(＃3)

注釈 詳細内容は「4.リサイクル・中間処理」参照。

2 財生産

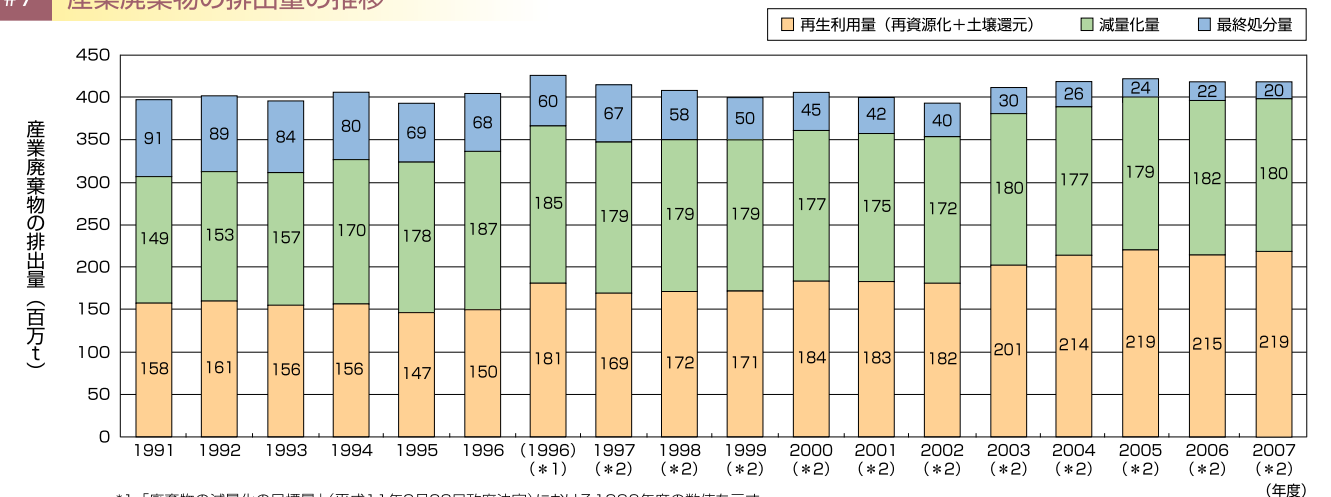
生産物は10.7億トンです。このうち輸出1.9億トンを差し引いた8.7億トンが国内に出荷されます。なお、ここでは資源投入量からエネルギー消費量、産業廃棄物の排出量(固形分)及び有価副産物を差し引いた数量を生産物としています。

この財生産の際に使用されるエネルギーの消費量は4.6億トンです。エネルギーの消費量は、エネルギー資源投入量5.1億トンから化学原料などに使用される非エネルギー用途への使用量0.4億トンを差し引いた数量です。

財生産に伴い排出される産業廃棄物は4.2億トン(水分含む)*³です。また、財生産の際に副次的に得られる有価副産物は0.6億トンです。なお、ここではスラグ、黒液、回収硫黄、回収硫酸および回収石こうの合計量を有価副産物としています。

注釈 *3: 土木・建築物の解体工事や生産設備の廃棄などに伴い発生する産業廃棄物を含む。

#7 産業廃棄物の排出量の推移



*1 「廃棄物の減量の目標量」(平成11年9月28日政府決定)における1996年度の数値を示す。

*2 1997年度以降の排出量は*1と同様の算出方法を用いて算出している。

(出典:環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等(平成19年度実績)」に加筆)

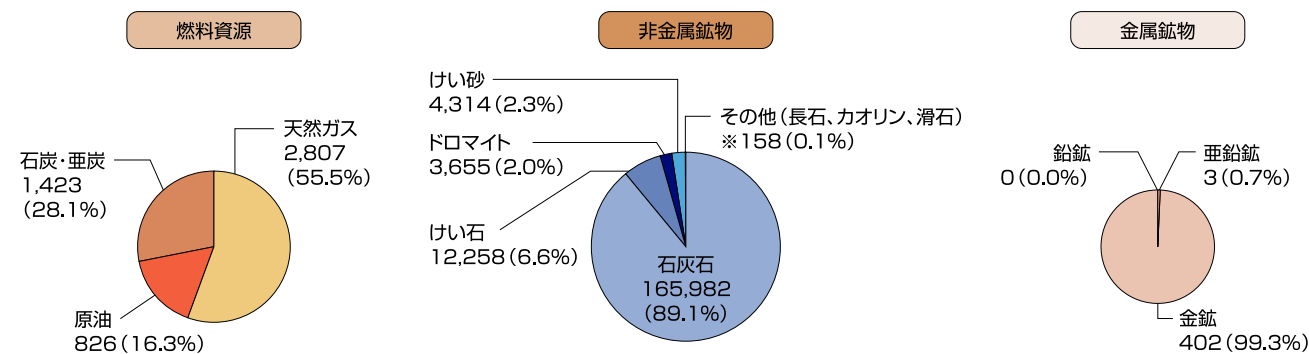
3 財消費

国内に出荷された生産物8.7億トンに輸入製品0.6億トンを加えた合計9.3億トンが国内で消費されます。この結果、一般家庭などからごみが0.5億トン、し尿等が0.2億トン排出されますが、残りの8.1億トンは国内に蓄積されます。

なお、産業界からは生産設備などの廃棄に伴い産業廃棄物が発生しますが、財生産に伴い副次的に発生する産業廃棄物と分離してその数量を算出することは困難なのでここではその分を算出していません(＃7に含まれている)。

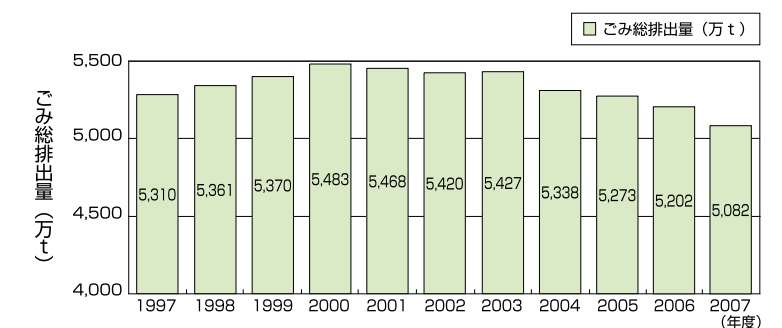
燃料・鉱物の内訳 (2007年/年度)

(単位: 千 t)



※西暦末尾0年又は5年をのみの調査のため、2005年の数値を掲載。

#13 ごみ総排出量の推移



(出典:環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等(平成19年度実績)」について(平成21年11月27日現在))

4 リサイクル・中間処理

(1) 再生資源

再生資源量は徐々に増加しています。有価副産物、有価使用済物品、産業廃棄物の再資源化量および一般廃棄物の再資源化量を合計すると2007年/年度の再生資源の国内生成量は2.7億トンです。(＃15)

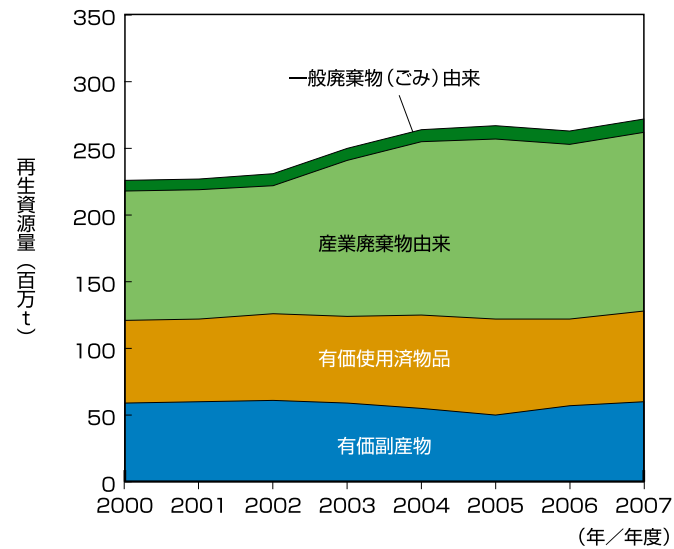
① 有価副産物(＃6)
投入資源から財を生産する際に副次的に発生する副産物のうち有価物は、前述のように、スラグ、黒液、回収硫黄、回収硫酸、回収石こうを想定し、合計0.6億トンです。

② 有価使用済物品(＃14)
古紙、鉄スクラップ、非鉄金属スクラップ、輸出再生資源(但し、鉄鋼スラグ、石炭灰を除く)を想定し、合計0.7億トンです。

③ 産業廃棄物の再資源化量(＃16)
環境省の発表している産業廃棄物の再生利用量から動物のふん尿ならびに下水汚泥および動植物残渣から肥料等に再生される量(土壌還元)を差し引いた1.3億トンです。

④ 一般廃棄物(ごみ)の再資源化量(＃17)
環境省の発表している一般廃棄物の総資源化量0.1億トン。

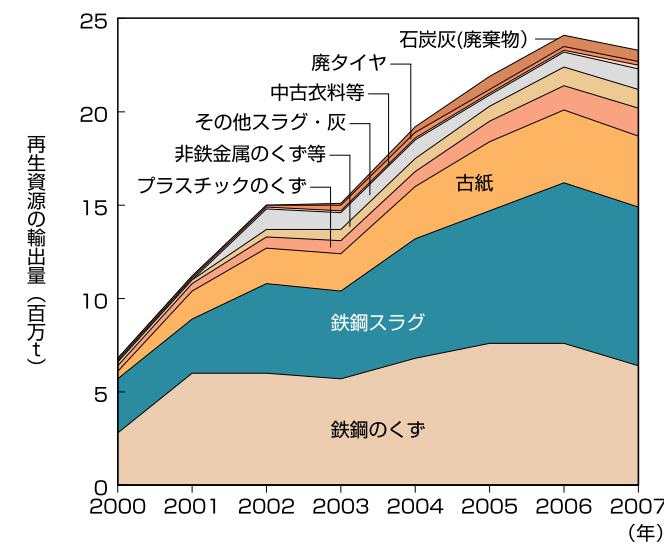
#15 再生資源量の推移 (輸出を含む)



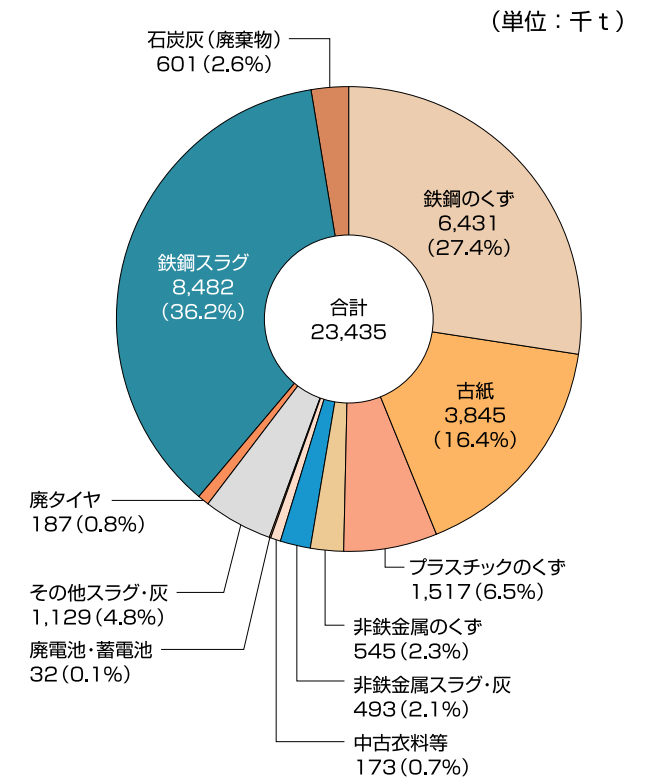
〈再生資源の輸出状況〉

また、過去5年間の再生資源の輸出量の推移をみると、2007年は減少していますが、これは鉄鋼のくず(鉄スクラップ)の輸出量が減少したことに起因しています。(＃18)

#18 再生資源の輸出量の推移

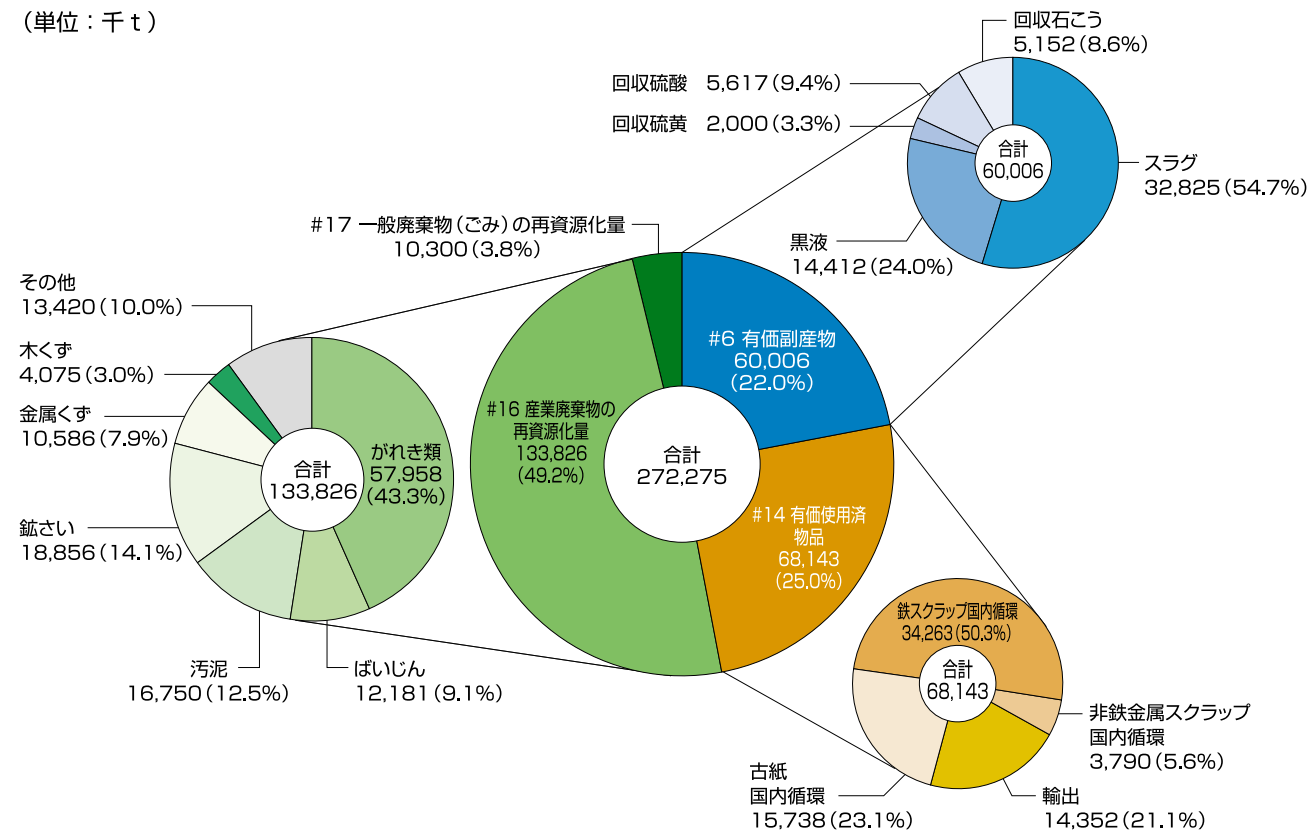


#18 再生資源の輸出量の内訳 (2007年)



#15 再生資源の内訳 (2007年/年度)

(単位: 千t)



(2) 中間処理減量

環境省によると廃棄物の焼却、脱水など中間処理により減少した重量は、一般廃棄物が0.3億トン、産業廃棄物が1.8億トン、合計2.1億トンです。(＃20)

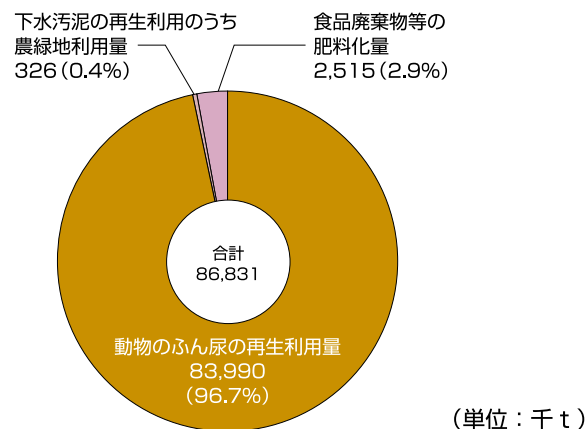
5 最終処分等

(1) 土壌還元

以下のものが2007年度に堆肥等として土壌還元利用されていると考えると合計量は0.9億トンです。

- ・環境省によると産業廃棄物のうち動物のふん尿は排出量の96%が再生利用されています。
- ・(財)日本下水道協会によると全国の下水处理場の水処理施設で発生した汚泥のうち15% (乾燥重量ベース) が農緑地利用されています。
- ・農林水産省によると食品廃棄物等の再生利用のうち37%が肥料向けです。(#19)

#19 土壌還元 (推肥化等) の内訳 (2007年度)



注釈

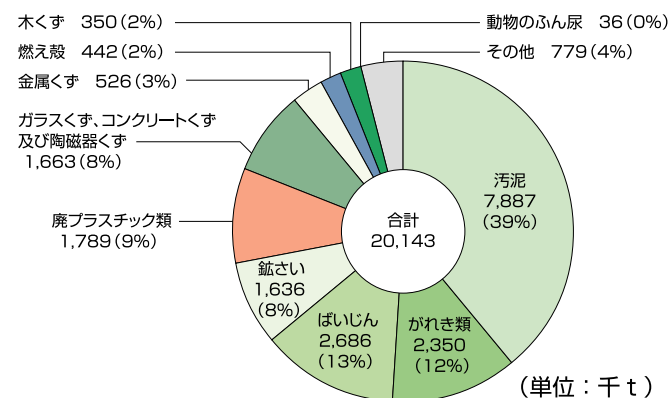
※農産物非食用部、林地残材は考慮せず。

(2) 最終処分

環境省によると廃棄物が最終的に埋立処分等の最終処分された重量は、一般廃棄物 (ごみ) が0.1億トン、産業廃棄物が0.2億トン、合計0.3億トンです。

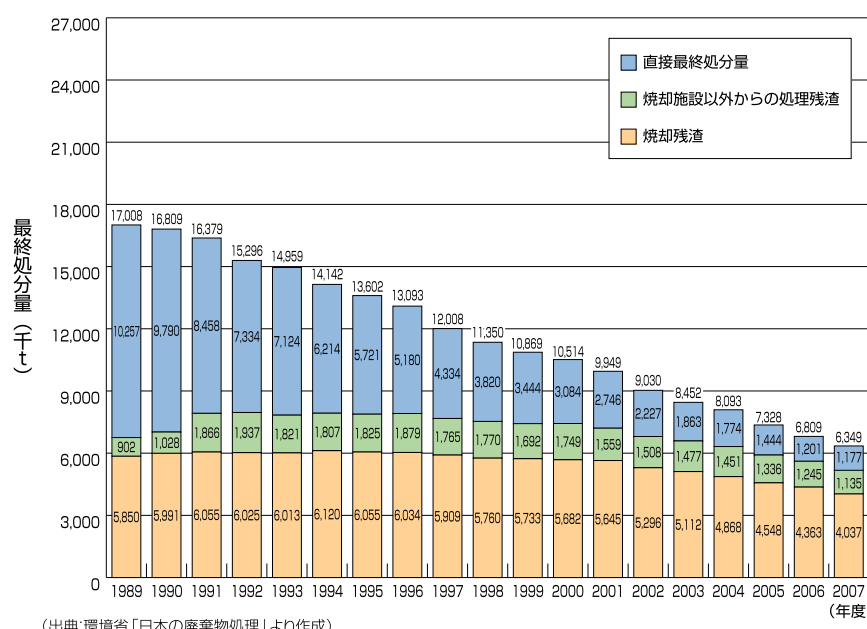
なお、最終処分量は産業廃棄物、一般廃棄物 (ごみ) とともに毎年減少し、合計ではここ10年間で約1/3に減少しています。(#21)

産業廃棄物の最終処分量 (2007年度)



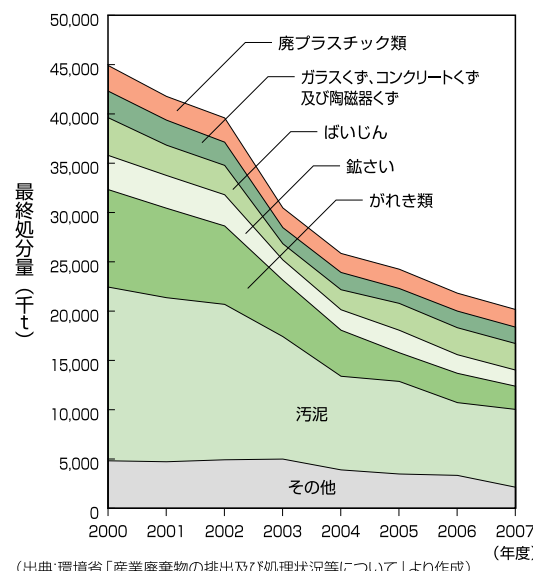
(出典: 環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等 (平成19年度実績) について」)

一般廃棄物 (ごみ) の最終処分量の推移



(出典: 環境省「日本の廃棄物処理」より作成)

産業廃棄物の最終処分量の推移



(出典: 環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等 (平成19年度実績) について」より作成)

日本のマテリアルバランス 2007 算出方法

1 資源投入

以下の合計を「資源投入」とする。

#1 輸入資源

財務省貿易統計における輸入品目のうち以下の合計を輸入資源とする。

- ・概況品目「食料品及び動物」「食料に適さない原材料」「鉱物性燃料」「動植物性油脂」
- ・概況品目「化学製品」のうちプラスチックのくず
- ・概況品目「原料別製品」のうち中古タイヤ及びウッドチップ
- ・概況品目「機械類及び輸送用機械」のうち一次電池又は蓄電池のくず

#2 国内資源

「採石法の対象品目」「砂利採取法の対象品目」「鉱業法の対象品目」「木材 (国内産)」「食料 (国内産)」を「国内資源」とする。

なお、「食料 (国内産)」においては、「粗糖以外の砂糖」「油脂類」「みそ」「醤油」は輸入食料から生産されるものと想定し除外した。

#3 再生資源 (国内循環)

「#6 有価副産物」「#14 有価使用済物品」「#16 産業廃棄物の再資源化量」「#17 一般廃棄物 (ごみ) の再資源化量」の合計から「#18 輸出再生資源」を差し引いた数量を「#3 再生資源 (国内循環)」とする。

2 財生産

#4 エネルギー消費

「#1 輸入資源」のうち「石炭」「石油」「天然ガス・石油ガス」と「#2 国内資源」のうち「燃料資源」との合計から「非エネルギー利用量 (原油換算)」を差し引いた数量を「#4 エネルギー消費」とする。

#5 生産物

「1. 資源投入」から「#4 エネルギー消費」「#6 有価副産物」「#7 産業廃棄物のうち固形分」を差し引いた数量。

#6 有価副産物

「スラグ」「黒液」「回収硫黄」「回収硫酸」「回収石こう」を「有価副産物」とする。

イ. スラグ

(財) クリーン・ジャパン・センターが推定した鉄鋼スラグ、非鉄金属スラグ等の鉱さい発生量から環境省が発表している産業廃棄物「鉱さい」を差し引いた重量。

ロ. 黒液

経済産業省がホームページで公開している「石油等消費動態統計」における「黒液」。

ハ. 回収硫黄、回収硫酸、回収石こう

硫酸協会資料に準拠。但し、回収石こうの重量は化学石こうの生産量から硫酸を使用して生産された石こうの重量を差し引いて算出。

#7 産業廃棄物

環境省が公表している産業廃棄物の排出量。

#8 輸出

財務省貿易統計における全輸出品目の合計を輸出とする。

#9 国内出荷

「#5生産物」から「#8輸出」を差し引いた数量。

3 財消費

#10 輸入製品

財務省貿易統計において、「#1輸入資源」以外の輸出品目の合計を輸入製品とする。

#11 財消費

「#9国内出荷」に「#10輸入製品」を加えた数量。

#12 国内蓄積

「#11財消費」から「#13一般廃棄物」「#14有価使用済物品」を差し引いた数量。

4 リサイクル・中間処理

#15 再生資源

「#6有価副産物」、「#14有価使用済物品」、「#16産業廃棄物の再資源化量」および「#17一般廃棄物（ごみ）の再資源化量」の合計。

#6 有価副産物

再掲

#14 有価使用済物品

「古紙国内循環」「鉄スクラップ国内循環」「非鉄金属スクラップ国内循環」と「#18輸出再生資源（但し、鉄鋼スラグ、石炭灰を除く）」との合計。

イ. 古紙国内循環

「古紙消費量」から「古紙輸入量」「市町村等による紙の資源化量」「産業廃棄物の紙くず再生利用量」を差し引いた数量。

ロ. 鉄スクラップ国内循環

「鉄スクラップ消費量」から「鉄スクラップ輸入量」「市町村等による金属類の資源化量」「産業廃棄物の金属くず再生利用量」を差し引いた数量。

ハ. 非鉄金属スクラップ国内循環

「非鉄金属スクラップ消費量」から「非鉄金属スクラップ輸入量」を差し引いた数量。

#16 産業廃棄物の再資源化量

「産業廃棄物の再生利用量」から「動物のふん尿の再生利用量」（環境省）、「下水汚泥の再生利用量のうち農緑地利用量」（社）日本下水道協会）、「動植物性残渣のうち肥料への再生利用量」（環境省、農水省）を差し引いた数量。

#17 一般廃棄物（ごみ）の再資源化量

環境省公表「一般廃棄物の総資源化量」。

#18 輸出再生資源

財務省貿易統計における鉄鋼のくず、非鉄金属のくず、古紙、プラスチックのくず等並びに環境省公表の石炭灰の輸出量（但し、この量は財務省貿易統計に含まれているので重複は排除している）の合計を輸出再生資源とする。詳細は「日本のマテリアルバランス2007 詳細と定義等」を参照のこと。

#20 中間処理減量

一般廃棄物（ごみ）の減量化量と産業廃棄物の減量化量（環境省公表値）との合計。

5 最終処分等

#19 土壌還元

産業廃棄物の再生利用のうち「動物のふん尿の再生利用量」（環境省）、「下水汚泥の再生利用のうち農緑地利用量」（社）日本下水道協会）、「食品廃棄物等の肥料化量」（農水省）の合計を「#19土壌還元（堆肥化等）」とする。

#21 最終処分

一般廃棄物（ごみ）最終処分量と産業廃棄物の最終処分量（環境省公表値）との合計。

6 水

#22 水分

産業廃棄物に含まれる水分（計算値）。

以上

日本のマテリアルバランス 2007 詳細と出典、定義等

項目	数量 (千t)	出典、定義 等	
1. 資源投入	1,745,461		
#1 輸入資源 (核算メモ:補正後第2分類) 210,301	762,654	財務省貿易統計	
石油	233,036	概況品コード305「天然ガス及び製造ガス」	
石炭	188,759		
天然ガス・石油ガス	80,609		
鉄鉱石	138,881		
その他	76,151		
生きた動物	19		「繊維くず、中古衣料、ぼろ」を除く
繊維原料	261		
非金属鉱物	21,068		
非鉄金属鉱	14,553		
製紙用木材チップ	14,337	概況品コード6050301「(ウッドチップ)」	
動植物性油脂	1,180		
その他原料品	21,201		
再生資源	3,532	概況品コード01703「植物性油かす」、205「生ゴム」のうち「ゴムくず」、209「パルプ及び古紙」のうち「古紙、古紙リユース」、211「織物用繊維及びくず」のうち「くず、中古衣料、ぼろ」、213「粗鉱物のうちスラグ(HS:2618,2619,2621)、215「金属鉱及びくず」のうちくず及びスラグ、灰、515「プラスチック」のうち「プラスチックのくず」、概況品コード703「電気機器」のなかの「一次電池又は蓄電池のくず並びに使用済みの一次電池又は蓄電池」	
食料	45,218		
#2 国内資源	733,967		
岩石	294,169	採石法の対象品目、資源エネルギー庁資源・燃料部鉱物資源課「採石業者の業務の状況に関する報告書の集計結果 平成19年版」	
砕砕(選別、コンクリート用)	231,116		
石材	59,017		
工業用原料	4,036		
砂利	182,711	砂利採取法の対象品目、経済産業省・国土交通省「平成19年度砂利採取業務状況報告書集計表」	
燃料・鉱物 以下の合計	191,828	鉱業法の対象品目	
燃料資源 以下の小計	5,056		
天然ガス	2,807	経済産業省「平成19年 資源・エネルギー統計年報」	
原油	826	同上	
石炭・亜炭	1,423	(財)石炭エネルギーセンター	
金属鉱物 以下の小計	405	鉱業法の対象品目	
金鉱	402	経済産業省「平成19年資源・エネルギー統計年報」	
鉛鉱	0	同上	
亜鉛鉱	3	同上	
非金属鉱物 以下の小計	186,367	鉱業法の対象品目	
石灰石	165,982	経済産業省「資源・エネルギー統計」	
けい石	12,258	同上	
ドロマイト	3,655	同上	
けい砂	4,314	同上	
その他(炭石、カオリン、滑石の合計)	158	経済産業省「平成17年本邦鉱業の趨勢調査」(西暦末尾0年又は5年のみ調査)	
木材	10,590	農林水産省「農林水産統計データ」	
食料	54,669	農林水産省「平成19年度食料需給表 確定値」	
穀類	9,851		
いも類	3,841		
でんぷん	2,802		
豆類	335		
野菜	12,527		
果実	3,444		
肉類	3,131		
鶏卵	2,587		
牛乳及び乳製品	8,024		
魚介類	5,102		
海藻類	124		
その他食料計	2,733		
砂糖類(粗糖のみ算入)	168	「粗糖」以外は含めず(輸入食料からの生産物と考える)	
油脂類	<2,049>	含めず(輸入食料からの生産物と考える)	
みそ	<484>	含めず(輸入食料からの生産物と考える)	
しょうゆ	<947>	含めず(輸入食料からの生産物と考える)	
#3 再生資源(国内循環)	248,840	「#15再生資源」から「#18輸出再生資源」を差し引く	

項目	数量 (千t)	出典、定義 等
2. 財生産		
#4 エネルギー消費	462,623	#1輸入資源投入量のうち「石炭+石油+天然ガス・石油ガス」計と#2国内資源のうち「燃料資源」との合計から「非エネルギー利用量」を差し引いた数値
#1のうち「石炭+石油+天然ガス・石油ガス」合計	502,404	輸入資源分
#2のうち「燃料資源」	5,056	国内資源分
非エネルギー使用量(差し引く)	44,837	経済産業省「エネルギーバランス表」における非エネルギー利用の値を原油換算
#5 生産物	1,061,488	
#6 有価副産物	60,006	
スラグ(有価物)	32,825	鉱さい(有価物+産廃)から鉱さい(産業廃棄物)を差し引いた値
鉱さい(有価物+産廃)	53,540	(財)クリーン・ジャパン・センター推定(平成19年度実績)
鉱さい(産業廃棄物)(差し引く)	20,715	環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等(平成19年度実績)について」
黒液(製紙)利用量	14,412	経済産業省「石油等消費動態統計月報」
回収硫黄量	2,000	硫酸協会「硫酸と工業、平成21年1月」の「平成20年度の硫黄および硫酸需給の見直し(見直し)」
回収硫酸量(回収硫黄分を除く)	5,617	硫酸協会「硫酸と工業、平成21年1月」の「平成20年度の硫黄および硫酸需給の見直し(見直し)」
回収石こう量	5,152	「化学石こう」から硫酸を使用して生産した分を差し引いた値。「化学石こう」:平成19年度5,766千t(石こう関係統計指標(硫酸協会)) 「中和石膏向け硫酸消費量」:平成19年度350千t(硫酸消費状況表(硫酸協会))
#7 産業廃棄物	419,425	環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等(平成19年度実績)について」
汚泥	185,305	
動物のふん尿	87,476	
がれき類	60,900	
鉱さい	20,715	
ばいじん	16,964	
金属くず	11,461	
その他	36,604	
#22 産業廃棄物の水分(内数)	258,081	
汚泥の水分	179,746	含水率97%(想定)×排出量
動物のふん尿の水分	69,981	含水率80%(想定)×排出量
廃酸の水分	5,605	含水率99%(想定)×排出量
廃アルカリの水分	2,749	含水率99%(想定)×排出量
産業廃棄物の固形分(内数)	161,344	
#8 輸出	191,714	財務省貿易統計
生きた動物	0	226t
食料	1,210	
飲料・たばこ	109	
原材料	6,216	「再生資源」に含まれるものを除く(「#18輸出再生資源」参照)
鉱物性燃料	15,250	
動植物性油脂	32	
化学製品	24,131	プラスチックのくずを除く
原料別製品	54,159	中古タイヤを除く
一般機械・電気機器	11,833	
輸送用機械	53,558	
その他製品	1,782	概況品コード8「雑製品」、9「特殊取扱品」
再生資源	23,434	#18輸出再生資源
#9 国内出荷	869,774	

項目	数量 (千t)	出典、定義 等
3. 財消費		
#10 輸入製品	59,578	財務省貿易統計
飲料・たばこ	1,394	
化学製品	16,653	プラスチックのくずを除く
原料別製品	27,352	中古タイヤ、ウッドチップを除く
一般機械・電気機器	6,849	
輸送用機械	1,636	
その他製品	5,694	概況品コード8「雑製品」、9「特殊取扱品」
#11 財消費	929,352	「#9国内出荷」と「#10輸入製品」の合計
#12 国内蓄積	785,539	
#13 一般廃棄物	75,670	環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等(平成19年度実績)について」(H21.11.27現在)
*1 ゴミ総排出量	50,820	
*2 し尿等	24,850	比重1
#14 有価使用済物品	68,143	
4. リサイクル・中間処理		
#14 有価使用済物品	68,143	下記の合計。但し、#18輸出再生資源の内「鉄鋼スラグ」「石灰灰(廃棄物)」は除く
古紙国内循環(廃棄物由来を除く)	15,738	「古紙消費量」-「古紙輸入量」-「市町村等による紙の資源化量」-「産業廃棄物の紙くず再生利用量」
古紙消費量	19,056	古紙再生促進センター「2007年版古紙統計年報」
古紙輸入量(差し引く)	70	財務省貿易統計
市町村等による紙の資源化量(一般廃棄物)(差し引く)	2,259	環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等(平成19年度実績)について」(H21.11.27現在)
産業廃棄物の紙くず再生利用量(差し引く)	989	環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等(平成19年度実績)について」(H21.11.27現在)
鉄スクラップ国内循環(廃棄物由来を除く)	34,263	「鉄スクラップ消費量」-「鉄スクラップ輸入量」-「一般の金属類再生資源化量」-「産廃の金属類再生利用量」
鉄スクラップ消費量	46,200	経済産業省「鉄鋼・非鉄金属・金属製品統計」
鉄スクラップ輸入量(差し引く)	337	財務省貿易統計
市町村等による金属類の資源化量(一般廃棄物)(差し引く)	1,014	環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等(平成19年度実績)について」(H21.11.27現在)
産業廃棄物の金属くず再生利用量(差し引く)	10,586	環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等(平成19年度)について」
非鉄金属スクラップ国内循環(廃棄物由来を除く)	3,790	非鉄金属スクラップ消費量-非鉄金属スクラップ輸入量
非鉄金属スクラップ消費量	4,090	経済産業省「鉄鋼・非鉄金属・金属製品統計年報」
粗鋼用	218	
粗鉛用	129	
電気亜鉛用	4	
蒸留亜鉛・清浄亜鉛用	1	880t
アルミニウムの原材料(アルミニウムのくず+屑及び屑の戻り)及びくず	1,279	
伸銅製品用	588	
アルミニウム圧延製品用	1,711	
電線用	159	
はんだ等用	1	
非鉄金属スクラップ輸入量(差し引く)	300	財務省貿易統計
#18 輸出(再生資源)	23,435	下記の合計 出典:財務省貿易統計(石灰灰以外)、環境省報道発表(石灰灰)
鉄鋼のくず	6,431	
古紙	3,845	
プラスチックのくず	1,517	
非鉄金属のくず	545	
非鉄金属(貴金属等)スラグ灰	493	
中古衣料等	173	概況品コード211「織物用繊維及びくず」のなかの「くず、中古衣料、ぼろ」
廃電池・蓄電池	32	
その他スラグ(石灰灰を除く)	1,129	HSコード2621から下記の石灰灰(廃棄物)を差し引いた値
廃タイヤ(中古+ゴムくず)	187	概況品コード205「生ゴム」のなかの「ゴムくず」、概況品コード603「ゴム製品」のなかの「中古タイヤ」
鉄鋼スラグ	8,482	HSコード:2618,2619
石灰灰(廃棄物)	601	環境省「廃棄物処理法に基づく廃棄物の輸出確認及び輸入許可(平成19年)について」

項目	数量 (千t)	出典、定義 等
#15 再生資源	272,275	以下の合計
#6有価副産物	60,006	
#14有価使用済物品	68,143	
#16産業廃棄物の再資源化量	133,826	再生利用量から「動物のふん尿の再生利用量」「下水汚泥の再生利用のうち農耕地利用量」「動植物性残渣のうち肥料へ再生利用されている量」を差し引いた数量
がれき類	57,958	再生利用量(補正前)に同じ
ばいじん	12,181	再生利用量(補正前)に同じ
汚泥	16,750	再生利用量(補正前)の「汚泥」から「下水汚泥の再生利用のうち農耕地利用量」を差し引いた数値
鉱さい	18,856	再生利用量(補正前)に同じ
金属くず	10,586	再生利用量(補正前)に同じ
木くず	4,075	再生利用量(補正前)に同じ
その他	13,420	再生利用量(補正前)の「その他」から「動物のふん尿の再生利用量」「動植物性残渣のうち肥料へ再生利用されている量」を差し引いた数値
再生利用量(補正前)	218,811	環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等(平成19年度実績)について」(H21.11.27現在)
がれき類	57,958	
ばいじん	12,181	
汚泥	17,076	
鉱さい	18,856	
金属くず	10,586	
木くず	4,075	
その他	98,079	
下水汚泥の再生利用のうち農耕地利用量(発生時の乾燥重量ベース)	326	(社)日本下水道協会 資料
動物のふん尿の再生利用量(土壌還元(差し引く))	83,990	環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等(平成19年度)について」
動植物性残渣の再生利用のうち肥料へ再生利用されている量(38%) 土壌還元(差し引く)	669	動植物性残渣の再生利用量:環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等(平成19年度実績)について」 1,857千t 肥料割合:農水省「食品循環資源の再生利用等実態調査結果の概要(平成19年度結果)」
#17一般廃棄物(ゴミ)の再資源化量	10,300	環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等(平成19年度実績)について」(H21.11.27現在)における「総資源化量」
#20 中間処理減量	214,591	
一般廃棄物(ゴミ)処理減量	34,120	環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等(平成19年度実績)について」(H21.11.27現在)
産業廃棄物処理減量	180,471	環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等(平成19年度)について」
5. 最終処分等		
#19 土壌還元(堆肥化等)	86,831	以下の合計
動物のふん尿の再生利用量	83,990	環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等(平成19年度)について」
下水汚泥の再生利用のうち農耕地利用量	326	(社)日本下水道協会 資料
食品廃棄物の肥料化量	2,515	農水省「平成19年食品循環資源の再生利用等実態調査結果の概要」
#21 最終処分	26,493	以下の合計
一般廃棄物(ゴミ)最終処分量	6,350	環境省「一般廃棄物の排出及び処理状況等(平成19年度実績)について」(H21.11.27現在)
産業廃棄物最終処分量	20,143	環境省「産業廃棄物の排出及び処理状況等(平成19年度)について」
6. 水		
#22 水分		
産業廃棄物の水分	258,081	再掲
汚泥の水分	179,746	含水率97%(想定)×排出量
動物のふん尿の水分	69,981	含水率80%(想定)×排出量
廃酸の水分	5,605	含水率99%(想定)×排出量
廃アルカリの水分	2,749	含水率99%(想定)×排出量